

東京地下鉄株式会社
サステナビリティボンド・フレームワーク

2021年8月31日

1. はじめに 当社及び当社事業の位置づけ

1)会社概要

東京メトロは、東京都区部を中心に9路線 195.0km 180 駅の地下鉄を運営し、うち7路線で他社と相互直通運転を実施する、首都圏の鉄道ネットワークの中核を担う企業です。

一日 498 万人のお客様にご利用いただく公共交通機関として、輸送の安全の確保に何よりも優先して取り組むとともに、安全性の向上、お客様の視点に立ったサービスの充実に日々努めております。また、お客様の日常をサポートする関連事業にも積極的に取り組んでおります。

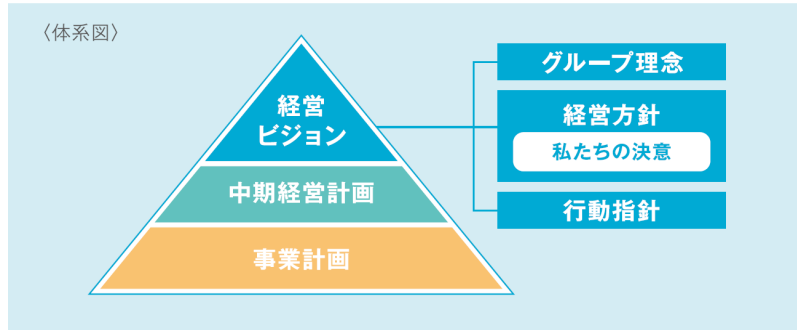
【営業状況】

2021年3月31日現在

	路線	区間	営業キロ	
営業路線及び 営業キロ	銀座線	(浅草～渋谷間)	14.2 キロ	
	丸ノ内線	(池袋～荻窪間)	24.2 キロ	
		(中野坂上～方南町間)	3.2 キロ	
	日比谷線	(北千住～中目黒間)	20.3 キロ	
	東西線	(中野～西船橋間)	30.8 キロ	
	千代田線	(北綾瀬～代々木上原間)	24.0 キロ	
	有楽町線	(和光市～新木場間)	28.3 キロ	
	半蔵門線	(渋谷～押上〈スカイツリー前〉間)	16.8 キロ	
	南北線	(目黒～赤羽岩淵間)	21.3 キロ	
	副都心線	(小竹向原～渋谷間)	11.9 キロ	
	総路線距離	全線 195.0 キロ(営業キロ)		
	駅数	180 駅		
車両数	2,750 両(2020 年度)			
輸送人員数	1 日平均 498 万人(2020 年度)			

2)経営ビジョン

経営ビジョンは、「グループ理念」・「経営方針」・「行動指針」から構成されています。



【グループ理念】

「グループ理念」は、長期的な視点で「東京メトログループの将来のありたい姿」を示したものです。

東京を走らせる力

私たち東京メトログループは、鉄道事業を中心とした事業展開を図ることで、首都東京の都市機能を支え、都市としての魅力と活力を引き出すとともに、優れた技術力と創造力により、安全・安心で快適なより良いサービスを提供し、東京に集う人々の生き活きとした毎日に貢献します。

【経営方針】

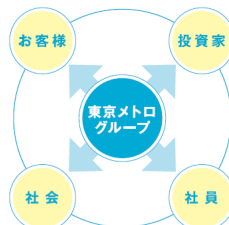
「経営方針」は、グループ理念の実現のために、お客様・社会・投資家・社員に対し何を提供していくのか、そのために何をするのかを示したものです。

お客様に対して

- 「私たちの決意」に基づき、たゆみなき「安全」の追求とお客様視点に立った質の高い「サービス」の提供に取り組みます。
- シームレスな都心ネットワークを活かすとともに乗換え利便性の向上を図り、より正確でスムーズな輸送を提供します。
- 東京に集う人々のニーズを的確にとらえ、あらゆるお客様にご利用いただける快適で魅力ある空間を創出するとともに、運賃水準の維持に努めます。

社会に対して

- 社会・地球環境に配慮した事業展開を通じ、持続可能な社会の実現に貢献します。
- 優良な企業市民として、首都東京の発展と地域社会との共生、さらに国際社会への貢献に積極的に取り組みます。
- コンプライアンス重視の経営を実践し、倫理面からも評価される企業グループになります。



投資家に対して

- 常に企業価値の向上を意識した経営を行い、グループ全体の収益力向上とコスト削減により健全な財務体質を維持するとともに、早期の上場と安定配当を可能とする利益体質を強化します。
- グループ成長のベースとして、業界最高水準を行く技術力の維持・向上に努めます。
- IR活動、ディスクロージャーに力を入れ、投資家との揺るぎない信頼関係を築きます。

社員に対して

- 社員のやりがい、働きがい、活力を引き出す企業グループになります。
- 民間企業として競争に勝つことのできるプロフェッショナル集団を目指します。
- 柔軟な発想と主体性を持ち、自ら問題を発見し解決できる人財を育成します。

私たちの決意

私たちは、たゆみなき「安全」の追求とお客様視点に立った質の高い「サービス」の提供によって、
全てのお客様に「安心」をお届けできるよう、より一層努力していきます。

たゆみなき「安全」の追求

2000年3月8日、中目黒において日比谷線列車脱線衝突事故を起こしました。
私たちは、事故の反省に立って、このような悲惨な事故を決して繰り返さない
という強い決意を持ち、輸送の安全に対する意識の改革や設備改良に取り組んでき
ました。

私たちは「安全」を確保するためには、全社員がたゆまぬ努力を継続することが
必要であると考えます。日比谷線列車脱線衝突事故を風化させることなく、職種
を問わず、新人からベテランに至る全社員が、安全を最優先する意識を持ち、組織
能力としての「現場力」を高めるとともに、新技術の開発や導入などにより、さらなる
安全文化を築き上げることが私たちの大きな務めです。

たゆみなき「安全」の追求、これが鉄道を運行する私たち東京メトログループの
使命です。

お客様視点に立った質の高い「サービス」の提供

東京メトログループでは、様々なお客様の声に耳を傾け、お客様の声を具体的
なサービスに反映するよう努めてきました。

一方、少子高齢化、駅周辺の再開発、訪日外国人の増加などによる社会の構造
変化等に伴い、お客様のニーズはますます多様化し、今後一層これらに対応する
質の高い「サービス」の提供が求められています。

このような認識のもと、「お客様の声」がグループ理念を実現する貴重な経営
資源であることを全社員が心に留めながら、「地下鉄をわかりやすく快適に」
ご利用いただくため、様々なアイデアを形にしていきます。

東京メトログループは、こうした取組みを通じて、鉄道業界におけるお客様満足
度ナンバーワンとなることを目指します。

【行動指針】

「行動指針」は、経営方針に基づき社員が取るべき行動を示したものです。

- 安全の大切さを心に刻み、社会からの揺るぎない信頼を獲得します。
- 首都東京のネットワークを支える者として、強い「自覚」と「責任感」を持って行動します。
- 常にお客様の視点に立ち、創造的で心に響くアイデアを形にします。
- 自由な議論とチームワークを大切にし、オープンで生き活きた企業グループを構築しま
す。
- 自主自立意識を強く持ち、新たな利益を創造しグループ価値の向上を図ります。

3) サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)とテーマ

東京メトログループは、首都東京の都市機能を支える交通事業者として重要な役割を担って
おり、移動を通じてビジネスや生活をサポートすることで、その使命をしっかりと果たすことが、
東京のさらなる発展と持続可能な社会の実現につながるものと考えています。そして、事業を
通じて具体的な行動をより推進していくため、東京メトログループが貢献すべきサステナビリテ
ィ重要課題(マテリアリティ)を特定しました。

～安心で、持続可能な社会へ～



東京を走らせる力

Keeping Tokyo on the Move

Theme 1 地下鉄を安全に、 そしてつよく ～ Realizing a Safer and More Resilient Subway ～	Theme 2 一人ひとりの毎日を 生き活きと ～ Contributing to the Active Lives of All People ～	Theme 3 東京に多様な 魅力と価値を ～ Enhancing the Multifaceted Charms and Value of Tokyo ～	Theme 4 地球にやさしい メトロに ～ Making Thoughtful Choices for a Healthy Planet ～
<p>① 安全・安定輸送の実現 たゆみなき「安全」の追求のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ■安全を最優先とし、過去の事故を決して繰り返さないという全役職員の固い決意 ■継続的な改善、設備改良、新技術の導入等による事故の未然防止 <p>② 強靱で安心な交通インフラの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ■首都直下地震や激甚化する気象災害に備えたスピード感を持った対策の推進 ■感染症拡大・テロ・サイバー攻撃等の脅威に備えた危機管理機能の強化 	<p>③ 移動の安心、利便性・快適性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ■すべての人に、より安心・快適な移動を提供 ■「my! 東京MaaS」の推進を軸とするモビリティ変革に挑戦 <p>④ 多様なライフ・ワークスタイルへの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ■社会やライフ・ワークスタイルの変化によって多様化するニーズに対応した事業展開 ■「my! 東京MaaS」の推進とも連動した、一人ひとりが「自分らしく」あるためのサービス提供 	<p>⑤ 都市・地域の魅力度向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ■地域に根差した魅力の発掘・発信を通じて、「ひと」と「まち」をつなぎ、沿線地域の豊かさを創出 ■多様なパートナーとの連携を通じた、駅・まち一体の調和のとれた空間整備、交通ネットワークの磨き込みにより、東京の魅力と価値を共創 	<p>⑥ 気候変動の緩和</p> <ul style="list-style-type: none"> ■先端技術や再生可能エネルギーの活用による環境負荷の低減 ■公共交通の利用促進及び環境性能に優れた鉄道技術の国内外への展開 <p>⑦ 海外への展開・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ■これまで培ってきた技術やノウハウの海外展開による現地交通サービスの発展支援

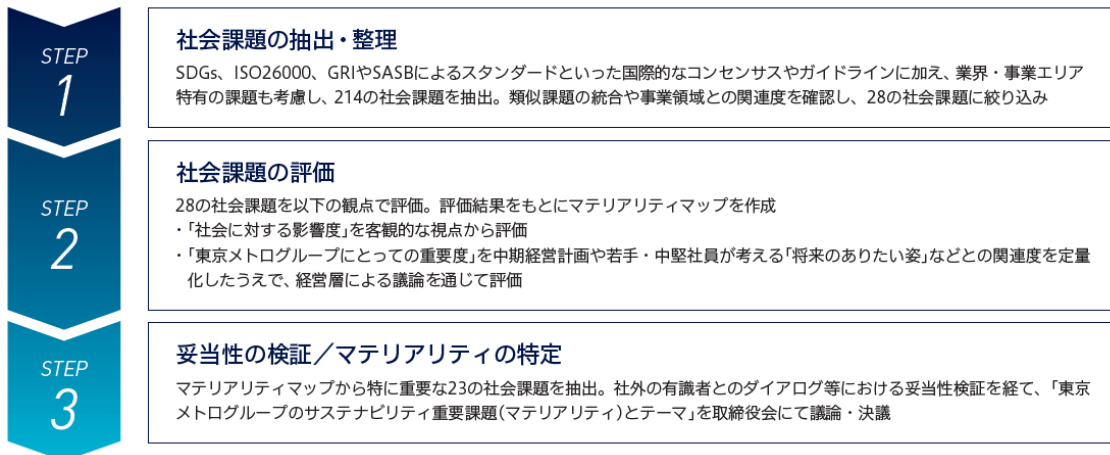
Theme 5 新たな時代を共に創る力を ～ Cultivating Resources for Our Sustainable Future ～

<p>⑧ 技術開発・DX・パートナーシップの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ■あくなき技術力の研鑽、デジタルトランスフォーメーション、パートナーシップの強化による業務の変革と新たな企業価値の創出 	<p>⑨ ガバナンス強化/人財育成/ダイバーシティ推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ■公正な組織統治の着実な実施 ■働き方改革、労働安全衛生の確保、人材の育成、ダイバーシティ・健康経営の推進
---	---

※①～⑨：サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)
 ※関連するSDGsについては、より関連度の高い目標を大きく表示しています。

【マテリアリティの特定プロセス】

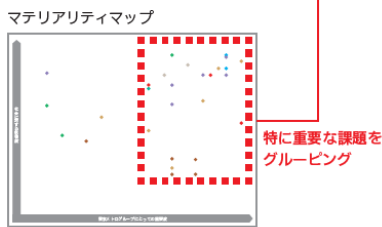
マテリアリティは、GRI等のガイドラインを参照し、以下のプロセスで特定しました。東京メトログループを取り巻く社会課題を起点に、重視して取り組むべき課題の整理や評価を行ったうえで、社長を議長とするサステナビリティ推進会議において社会課題の抽出から評価、妥当性の検証まで議論を重ねたのち、取締役会における複数回の議論によりマテリアリティを特定しました。



【マテリアリティマップから重要課題を抽出】

社会課題の評価結果は、マップ上にプロットし可視化を行いました。そこから「社会に対する影響度」及び「東京メトログループにとっての重要度」がともに大きい社会課題を特に重要な課題とし(下図赤枠)、それらをグルーピングし9つのマテリアリティを特定するとともに、課題解決に向け自社の意志を込めた5つのテーマを定めました。鉄道起点の「地下鉄を安全に、そしてつよく」、人起点の「一人ひとりの毎日を生き活きと」、まち起点の「東京に多様な魅力と価値を」、地球起点の「地球にやさしいメトロに」、これらを支える経営基盤(土台)として「新たな時代を共に創る力を」、この各起点を軸とした5つのテーマに基づく各種取組を推進していくことで、「東京を走らせる力」というグループ理念のもと、「安心で、持続可能な社会」の実現を目指します。

	マテリアリティ	社会課題	マテリアリティテーマ
(極めて大きい) 社会に対する影響の程度 (大きい)	① 安全・安定輸送の実現	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の安全確保・安定性向上 公共インフラの維持管理 	Theme 1 地下鉄を安全に、そしてつよく
	② 強靱で安心な交通インフラの構築	<ul style="list-style-type: none"> 社会インフラの強靱化 災害時の復旧・避難 感染症拡大防止 インフラ・イベントへのテロ防止 サイバー攻撃・犯罪の抑止 	
	③ 移動の安心 利便性・快適性向上	<ul style="list-style-type: none"> 交通ネットワークの効率・利便性向上 交通分野における高齢化社会への対応(バリアフリー等) 新たな交通システムの普及 	Theme 2 一人ひとりの毎日を生き活きと
	④ 多様なライフ・ワークスタイルへの対応	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革・ダイバーシティの推進 予防による健康維持・増進 人権の尊重・不平等の是正 	
	⑤ 都市・地域の魅力度向上	<ul style="list-style-type: none"> グローバル都市としての機能・魅力度向上 地域の豊かさの創出 	Theme 3 東京に多様な魅力と価値を
⑥ 気候変動の緩和	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動の緩和 	Theme 4 地球にやさしいメトロに	
⑦ 海外への展開・支援	<ul style="list-style-type: none"> 海外への展開・支援 		
(大きい) 東京メトログループにとっての重要性(極めて大きい)	⑧ 技術開発・DX・パートナーシップの強化	<ul style="list-style-type: none"> 技術開発・革新/デジタル化の促進 パートナーシップの強化 	Theme 5 新たな時代を共に創る力を
	⑨ ガバナンス強化/人財育成/ダイバーシティ推進	<ul style="list-style-type: none"> (社員の)働き方改革・ダイバーシティの推進 (社員の)予防による健康維持・増進 (社員の)人権の尊重・不平等の是正 労働環境の整備(労働者の安全衛生等) 企業の社会的責任・人材育成 ガバナンスの充実(組織統治・適正な監査等) 公正な事業慣行(汚職防止) 	



【SDGs 達成への貢献】

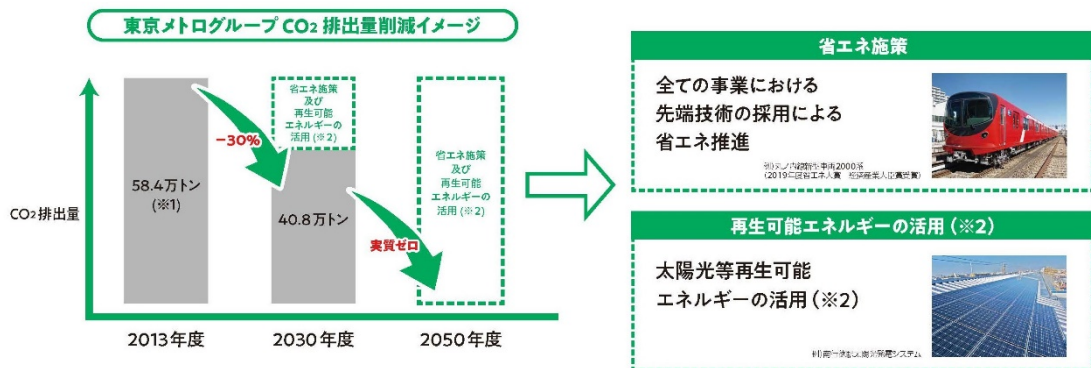
マテリアリティの特定に合わせて、SDGs に掲げられている 17 の目標、169 のターゲットとの関連性を整理しました。目標 11 の「住み続けられるまちづくりを」を最も関連が高い目標、8、9、13、16、17 を次に関連が高い目標として捉え、マテリアリティの解決に向けた各種施策を通じて、SDGs の達成に貢献していきます。

凡例 ○：特に関連が高い目標 ●：関連が高い目標

マテリアリティ		SDGs											
マテリアリティ	マテリアリティ	3	5	6	7	8	9	10	11	12	13	16	17
地下鉄を安全に、そしてつよく									●	○	○	○	
	安全・安定輸送の実現									○			
	強靱で安心な交通インフラの構築						●		○	○	○		
一人ひとりの毎日を生き活きと		●	●			●		●	○	●			●
	移動の安心、利便性・快適性向上					●		●	○				●
	多様なライフ・ワークスタイルへの対応	●	●			●		●	○	●			●
東京に多様な魅力と価値を						●	●		○				○
	都市・地域の魅力度向上					●	●		○				○
地球にやさしいメトロに				●	●		●		●	●	○		●
	気候変動の緩和			●	●					●	○		
	海外への展開・支援					●		●					●
新たな時代を共に創る力を		●	●			○	○	●		●		○	●
	技術開発・DX・パートナーシップの強化						○						●
	ガバナンス強化/人財育成/ダイバーシティ推進	●	●			○		●		●		○	

4)長期環境目標「メトロCO₂ゼロ チャレンジ 2050」

2021年3月、東京メトログループは、マテリアリティの1つ「気候変動の緩和」に向けた具体的な取組を推進するため、東京メトロ長期環境目標「メトロCO₂ゼロ チャレンジ 2050」を設定しました。東京メトログループ全事業が排出するCO₂量について、「2030年度-30%(2013年度比)、2050年度実質ゼロ」を目指します。



(※1) CO₂排出係数は0.555kg-CO₂/kWhを採用。(※2) 再生エネルギー由来電力利用の他、水素等の代替エネルギーの活用等を検討。

5)サステナビリティボンドの発行意義

東京メトログループは、特定したマテリアリティに基づき、各種施策を推進していますが、サステナビリティボンドの発行を通じて、気候変動問題などの社会課題の解決に資する取組をより一層推進していきます。また、発行を通じた情報発信により、ステークホルダーとのエンゲージメントの強化に努め、ステークホルダーの皆様とともに、SDGs 達成への貢献、ひいては「安心で、持続可能な社会」の実現を目指します。

本サステナビリティボンドで得た資金は、新型車両の導入をコアとする適格プロジェクトに全額充当する予定です。

なお、今般、昨年5月に策定したサステナビリティボンドのフレームワークを拡張しました。当該フレームワークはサステナビリティボンドの発行意義に合致するとともに、ポジティブ・インパクトを社会にもたらすものと考えております。

2.1 調達資金の用途

1)東京メトログループの「サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)とテーマ」に基づく、適格プロジェクトの選定

適格プロジェクトは、1-3)サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)とテーマに記載された内容に基づき選定を行いました。






具体的には、Theme 1「地下鉄を安全に、そしてつよく」、Theme 2「一人ひとりの毎日を生き活きと」、Theme 4「地球にやさしいメトロに」に関連する事業をプロジェクトとして選定しています。

2)適格プロジェクトについて

社債発行により調達した資金は、表1の適格プロジェクトの全部または一部に充当します。

表1: 適格プロジェクト一覧

マテリアリティ テーマ及びマテリアリティ	適格 プロジェクト	適格 プロジェクト例	適格カテゴリー及び 期待される効果について
Theme 1 「地下鉄を安全に、そしてつよく」 マテリアリティ① 「安全・安定輸送の実現」	(ア) 駅ホームの安全性向上 	・ホームドアの整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 手ごろな価格の基本的インフラ設備(ソーシャルボンド原則) ・ホームドアの整備によるホームからの転落や列車との接触事故防止
Theme 1 「地下鉄を安全に、そしてつよく」 マテリアリティ② 「強靱で安心な交通インフラの構築」	(イ) 自然災害対策  	大規模浸水対策 ・駅出入口、坑口(トンネルの入り口部分)、地上駅、変電所等の浸水対策工事(浸水防止機、防水ゲート、防水扉、止水板の設置等) 震災対策 ・トンネル中柱等の補強	<ul style="list-style-type: none"> ● 手ごろな価格の基本的インフラ設備(ソーシャルボンド原則) ・浸水対策工事による水害被害の軽減 ・震災対策による地震被害の軽減 ● 気候変動への適応(グリーンボンド原則) ・気候変動に起因した河川流量の増加等による洪水の増大への備え

<p>Theme 2 「一人ひとりの毎 日を活き活きと」 マテリアリティ③ 「移動の安心、 利便性・快適性 向上」</p>	<p>(ウ)新型車両 の導入</p>   	<p>・有楽町線・副都心線 17000系車両、半蔵 門線 18000系車両の 導入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● クリーン輸送(グリーンボ ンド原則) ・永久磁石同期モーター (PMSM)、シリコンカーバイド (SiC)素子を採用した最新式制 御装置、LED照明の導入によ る消費電力低減及びCO₂排出 量の削減 ● 手ごろな価格の基本的イ ンフラ設備(ソーシャルボ ンド原則) ・車内セキュリティカメラ、走行 する車両の機器状態を遠隔で モニタリングできるTIMAシステ ム(車両情報監視・分析システ ム)、脱線検知装置の搭載によ る安全・安心な輸送サービスの 提供 ・消臭・抗菌・抗ウイルス加工 が施された座席表地の採用、 フリースペース設置(ベビーカ ー・車椅子対応)、車内案内表 示の多言語対応、車両とホー ムの段差低減による全ての人 が安心・快適に利用できる輸送 サービスの提供
<p>Theme 4 「地球にやさしい メトロに」 マテリアリティ⑥ 「気候変動の緩 和」</p>			
<p>Theme 4 「地球にやさしい メトロに」 マテリアリティ⑥ 「気候変動の緩 和」</p>	<p>(エ)再生可能 エネルギーの 導入</p>  	<p>・太陽光発電システ ムの設置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 再生可能エネルギー(グリ ーンボンド原則) ・再生可能エネルギー(太陽光 発電)の導入拡大によるCO₂排 出量の削減

2.2 プロジェクトの評価と選定のプロセス

1) プロジェクトの選定基準と選定プロセス

特定した「サステナビリティ重要課題とテーマ」を踏まえ、財務部及び経営管理部において適格プロジェクトを選定しました。選定したプロジェクトは財務部担当取締役及び経営管理部担当取締役確認のうえ、社長が最終決定を行いました。

2) プロジェクトの選定基準と選定プロセスの開示方法

プロジェクトの選定基準及び確定プロセスに関しては、まず訂正発行登録書を提出し、フレームワーク及び第三者評価レポートを投資家に開示、その後発行登録書追補書類を提出する予定です。

3) プロジェクトが環境に与える影響とその対処法

事業活動によって環境にネガティブな影響を与えた場合、周辺住民の皆様や国・地域に多大な損失や悪影響を及ぼしかねません。東京メログループでは、経営方針に示された「社会・地球環境に配慮した事業展開を通じ、持続可能な社会の実現に貢献します」という考え方に基づき、地球環境問題を経営課題の1つと捉え、東京メログループ環境基本方針及び長期環境目標「メロCO₂ゼロ チャレンジ 2050」のもと、グループ全体で様々な環境保全への取り組みを展開しています。

当社の環境マネジメントシステム、長期環境目標「メロCO₂ゼロ チャレンジ 2050」、環境目標と実績、環境教育などは東京メログループ「サステナビリティレポート」でご確認いただけます。

2.3 調達資金の管理

1) 調達資金の入金口座

本サステナビリティボンドにより調達した資金は東京地下鉄株式会社名義の普通預金口座に入金される予定です。

2) 調達資金の追跡管理の方法

本サステナビリティボンドの調達資金の管理は財務部が行います。同部にて適格プロジェクトにかかる支出を管理し、資金の充当額及び未充当額を追跡します。資金充当状況については、年次で財務部長による確認を行い、当社ウェブサイトにて公表します。

3) 調達資金の充当計画について

社債発行により調達した資金は、新規分が約50%、リファイナンス分約50%の割合で充当する予定です。

4)未充当資金の管理・運用の方法

未充当資金は、現金及び現金同等物にて管理します。

2.4 レポーティング

本サステナビリティボンド発行から全額充当するまでの期間、資金の充当状況及び環境・社会効果として当社が定めた指標を、当社ウェブサイト上にて年次で開示することを予定しています。また、株式会社格付投資情報センター(R&I)より資金の充当状況及び環境・社会効果に係る指標のレポーティングの状況を主としたサステナビリティボンド評価のレビューを受ける予定です。

なお、当社は、当社事業に係る計画・実績について、事業計画や決算情報等を作成し、当社ウェブサイトにて公開しています。

<定期レポーティングの一覧>

1)インパクト・レポーティング

環境・社会効果として、以下のインパクト・レポーティング一覧を当社ウェブサイト上で年次で開示することを予定しています。

表 2:インパクト・レポーティング一覧

マテリアリティテーマ及びマテリアリティ	適格プロジェクト	レポーティング事項
Theme 1 「地下鉄を安全に、そしてつよく」 マテリアリティ① 「安全・安定輸送の実現」	(ア)駅ホームの安全性向上	・ホームドア設置駅数 ・転落事故件数
Theme 1 「地下鉄を安全に、そしてつよく」 マテリアリティ② 「強靱で安心な交通インフラの構築」	(イ)自然災害対策	・対策の概要 ・対策工事の施工箇所数

Theme 2 「一人ひとりの毎日を生き活きと」 マテリアリティ③ 「移動の安心、利便性・快適性向上」	(ウ)新型車両の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・車両導入数(編成数) ・CO₂削減量
Theme 4 「地球にやさしいメトロに」 マテリアリティ⑥ 「気候変動の緩和」		
Theme 4 「地球にやさしいメトロに」 マテリアリティ⑥ 「気候変動の緩和」	(エ)再生可能エネルギーの導入	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光システム設置駅数 ・年間発電量 ・CO₂削減量

2) 当社業務全般に係るレポート

社会環境活動を中心とした当社業務全般に係る取組みの年次報告書として、東京メトログループ「サステナビリティレポート」を毎年発行し、当社ウェブサイトにも公表しています。

〈サステナビリティレポート 2020〉

<https://www.tokyometro.jp/corporate/csr/report/pdf/sr2020.pdf>

3) 財務状況に係るレポート

有価証券報告書、決算情報を当社ウェブサイトにて公表しています。

〈有価証券報告書・決算情報〉

<https://www.tokyometro.jp/corporate/ir/index.html>